
平成19年3月期
決算説明資料

2007年7月11日

 静甲株式会社


Listed Company 6286

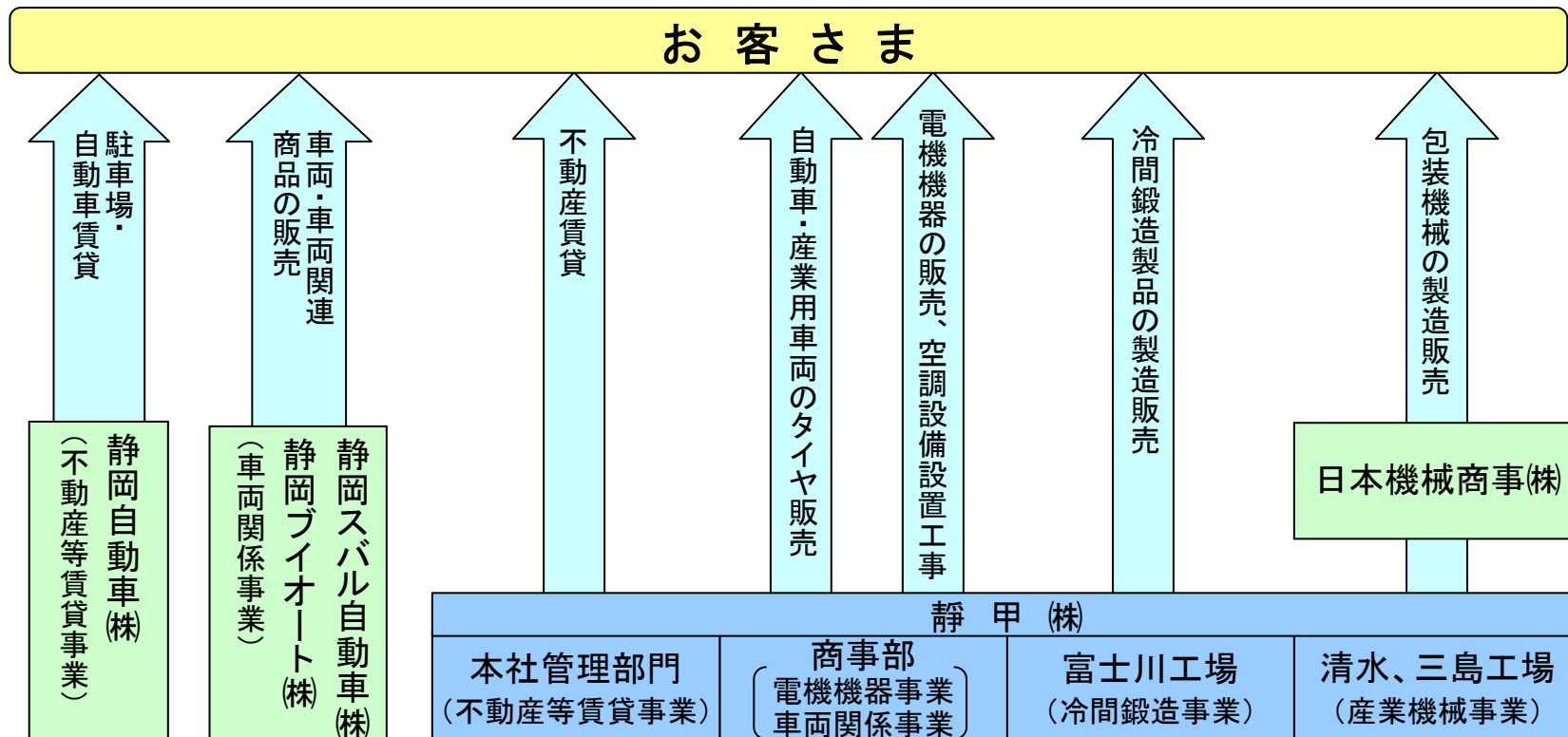
目 次

会社概要	P 1
グループ概要(連結子会社)	2
平成19年3月期 業績の概要(連結)	3 ~ 7
業績の推移(連結)	8
連結財務諸表(要旨)	9 ~ 12
業績の推移(個別)	13
個別財務諸表(要旨)	14 ~ 16
トピックス	17
平成20年3月期業績予想(連結・個別)	18

会社概要

会社名	静甲株式会社
設立	昭和14年5月18日
上場市場	JASDAQ (平成2年10月 上場)
発行済株式総数	5,250,000株 (単元株式数 1,000株)
代表者	取締役社長 鈴木恵子
本社所在地	静岡県静岡市清水区天神2丁目8番1号
資本金	13億3千7百万円
売上高	連結 246億1千3百万円 個別 99億2千1百万円 (平成19年3月期)
従業員数	連結 608名 個別 279名 (平成19年3月31日現在)
事業内容	<ul style="list-style-type: none">■液体自動充填機などの自動包装プラントの製造販売■冷間鍛造製品の製造販売■FA機器、空調設備、モーター、非常用電源設備、エレベーターなどの総合電機設備機器の販売及び電機・空調設備工事■スーパードライヤー、ホイールローダー、クレーン等の省力機械の販売■自動車・産業用車両のタイヤ販売
連結子会社	日本機械商事(株) (本社：東京都)、静岡自動車(株)、静岡スバル自動車(株)、静岡バイオ(株)

グループ概要（連結子会社）



■ 連結子会社の概要

会社名	資本金	当社の議決権比率	主な事業内容
日本機械商事株式会社(本社:東京都)	150,000千円	100%	包装機械の販売
静岡自動車株式会社	16,000	100	駐車場業・レンタカー業
静岡スバル自動車株式会社	961,000	50.35	自動車の販売修理
静岡バイオート株式会社	80,000	50.35	輸入自動車の販売修理

(注) 静岡バイオート株式会社は、静岡スバル自動車株式会社の100%子会社です。

平成19年3月期 業績の概要（連結）

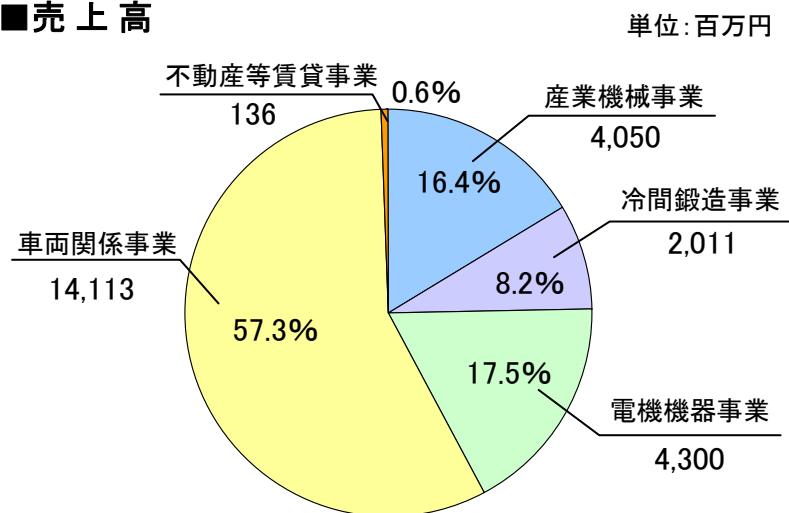
概要

当連結会計年度におけるわが国の経済は、輸出関連を中心とした大企業の好調な企業収益に支えられ設備投資が増加するとともに、所得環境及び雇用環境の改善から個人消費にも持ち直しの動きがみられるなど、全体として緩やかな景気回復が持続しました。

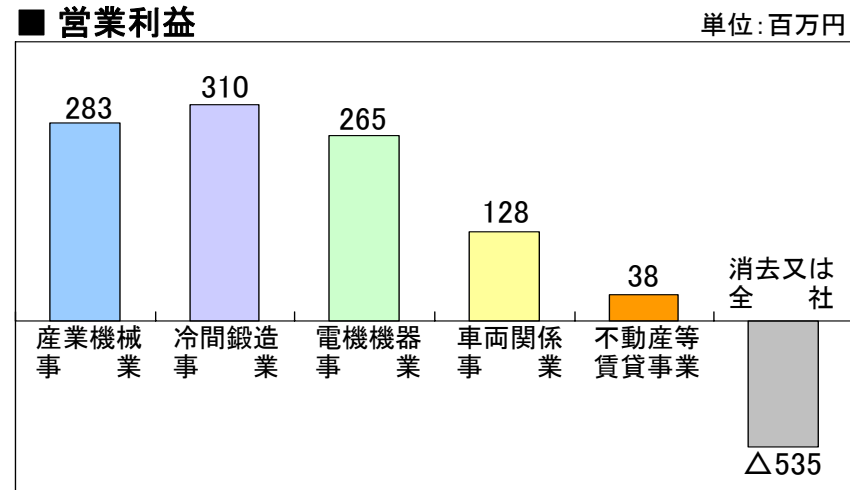
当社グループの電機機器事業と冷間鍛造事業は引き続き好調で前連結会計年度を上回る売上高となりましたが、連結売上高の多くを占める車両関係事業では、国内自動車業界における厳しい販売環境の影響を受け、スバル新車販売部門の販売台数が計画を大きく下回りました。この結果、当社グループの連結売上高は246億1千3百万円（前期比5.7%減）となりました。利益面ではグループ全体で経費が減少したこともあり、経常利益は5億4千9百万円（前期比1.5%減）となりました。また、前連結会計年度は減損会計の適用による減損損失1億6千6百万円を特別損失として計上しましたが、当連結会計年度で新たに発生した減損損失はありませんでしたので、当期純利益は2億1千5百万円（前期比111.7%増）となり、減収増益となりました。

セグメント別売上高・営業利益

■売上高



■営業利益



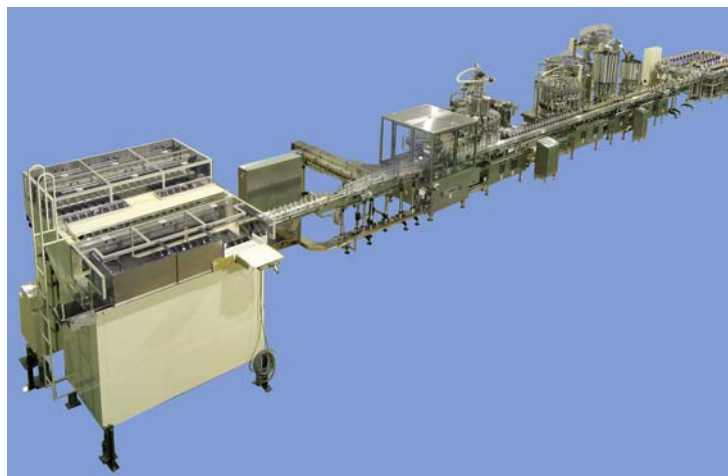
(注)「消去又は全社」は、主にセグメント別に配賦することができない当社の管理部門に係わる費用です。

各事業セグメントの業績

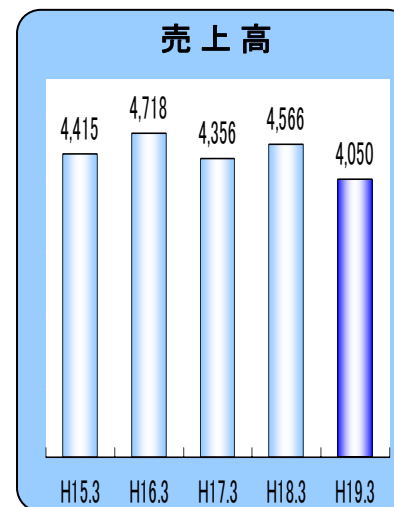
— 産業機械事業 —

業績

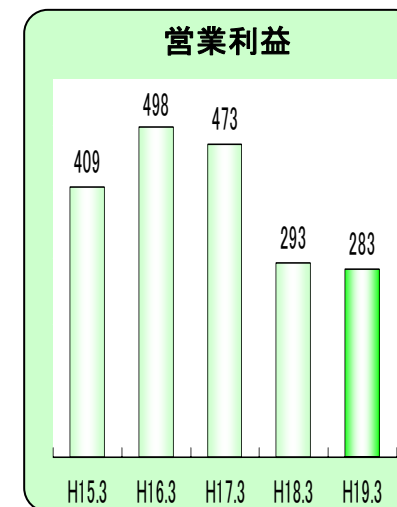
産業機械事業では、多品種少量生産向けの充填巻締機シリーズの受注が堅調で、当連結会計年度より市場に本格投入したパウチ充填シール機も拡販キャンペーン等により一定の成果を得ることができました。しかし、大型・中型の包装機械設備の受注が振るわず、売上高は40億5千万円（前期比11.3%減）にとどまり、営業利益は2億8千3百万円（前期比3.3%減）となりました。



ネック搬送充填システムを搭載したドレッシング充填ライン



単位：百万円



単位：百万円

対処すべき課題

産業機械事業では、顧客満足を高めるためには高品質、短納期、適正価格の機械を提供していくことが重要であるとの認識に立ち返り、今後も機械のセミオーダー化を推進してまいります。また、販売面におきましては、既存の製品群に加えてパウチ充填シール機及びネック搬送充填システムなど、新しくラインアップに加わった製品の拡販に注力するとともに、医薬関連の展示会であるインターフェックス ジャパン（平成19年6月開催）への出展を足がかりとして、事業分野拡大のために医薬品業界向けの販売拡大にも取り組んでまいります。

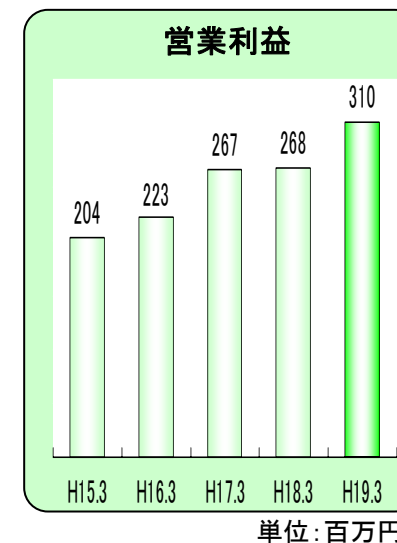
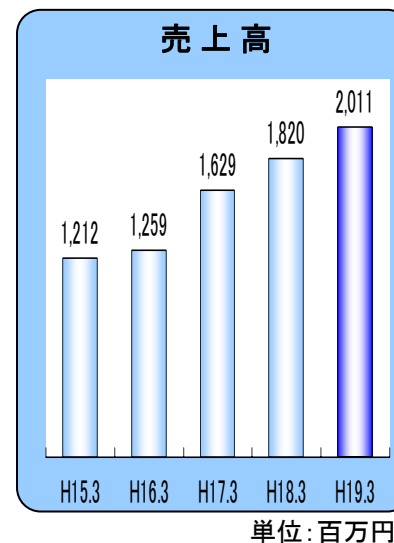
— 冷間鍛造事業 —

業 績

冷間鍛造事業では、納入先メーカーの好調な輸出に支えられて主力の電動工具部品及び自動車部品が堅調に推移したため、フル生産を継続して増加する受注に対応しました。また、プレス機の自動化や金型の耐久性向上を推進するなど工程の見直しを行い生産効率の向上に取り組んだ結果、売上高は20億1千1百万円（前期比10.5%増）、営業利益は3億1千万円（前期比15.6%増）となりました。



新規受注の電動工具用部品



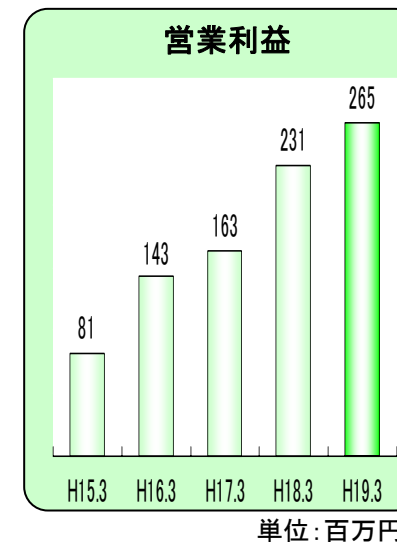
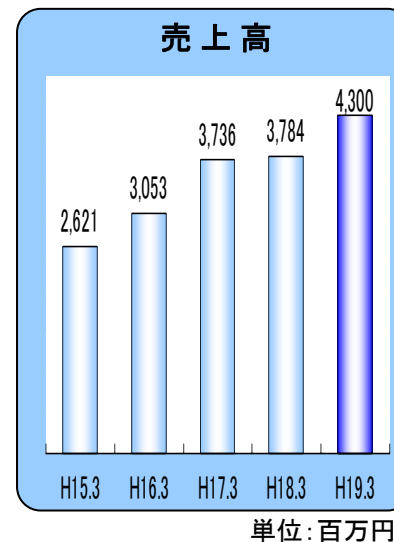
対処すべき課題

冷間鍛造事業では、今後も受注高が高い水準で推移することが予想されるため、それに対応すべく生産能力増強のための設備投資を行い、増加する外注費の削減と製造リードタイムの短縮を図ります。加えて、小集団活動を通して金型寿命の改善、プレス作業の効率化などのテーマに取り組み、総合的な生産効率の向上に努めます。また、生産量の増加が環境に与える影響を考慮し、環境マネジメントシステム（ISO 14001）の継続的な運用により、環境負荷の低減に取り組んでまいります。

— 電機機器事業 —

業績

電機機器事業では、半導体やメディア等に関する輸出関連企業の活発な設備投資需要を背景に、三菱電機製のF A関連機器の販売が順調に推移しました。また、制御盤のシステム提案などで商品の付加価値を高めるとともに、取扱品目の拡充を行い売上の拡大を図りました。加えて、ガスタービン発電機などの大型の設備物件も販売でき、電機機器事業の売上高は43億円（前期比13.6%増）、営業利益は2億6千5百万円（前期比14.8%増）となりました。



対処すべき課題

電機機器事業では、F A関連機器を中心とした電機機器の売上拡大のため、静岡県西部地区での販売強化に継続的に取り組むとともに、東部地区においても営業拠点の再構築を検討してまいります。また、販売店とのE D I取引（電子商取引）の導入を積極的に進め、増加する受注に迅速に対応するとともに、事務コストの削減を図ってまいります。

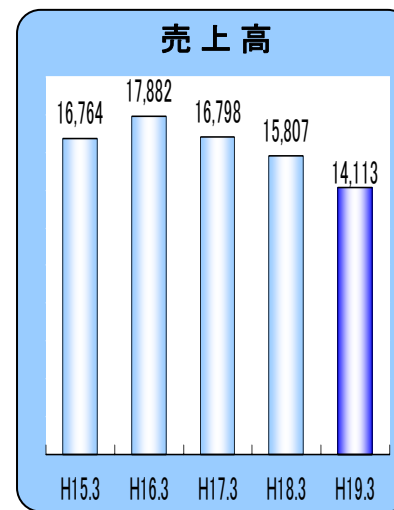
— 車両関係事業 —

業績

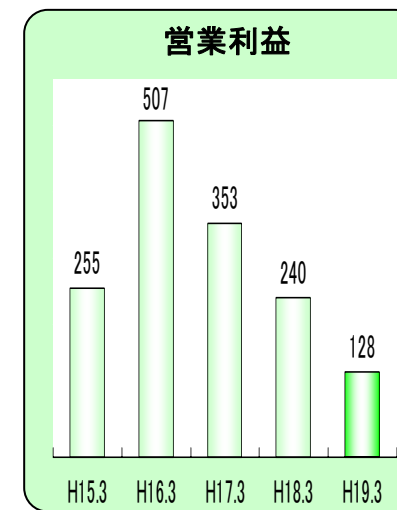
車両関係事業では、連結子会社の静岡スバル自動車㈱のスバル新車販売部門において、国内市場全体の落ち込みに加え、需要の中心が従来強みとしていたステーションワゴンやSUVからコンパクトカーや多人数乗りの車種に移行したことなどの影響を受けて小型・普通自動車の販売台数が落ち込みました。また、軽自動車の販売台数は、平成18年6月に新型軽乗用車（ステラ）が発売されたことにより前連結会計年度の実績を上回ったものの、他社の多彩な車種展開に押されて伸び悩み、車両関係事業の売上高は141億1千3百万円（前期比10.7%減）、営業利益は1億2千8百万円（前期比46.5%減）となりました。



NEW IMPEWZA



単位：百万円

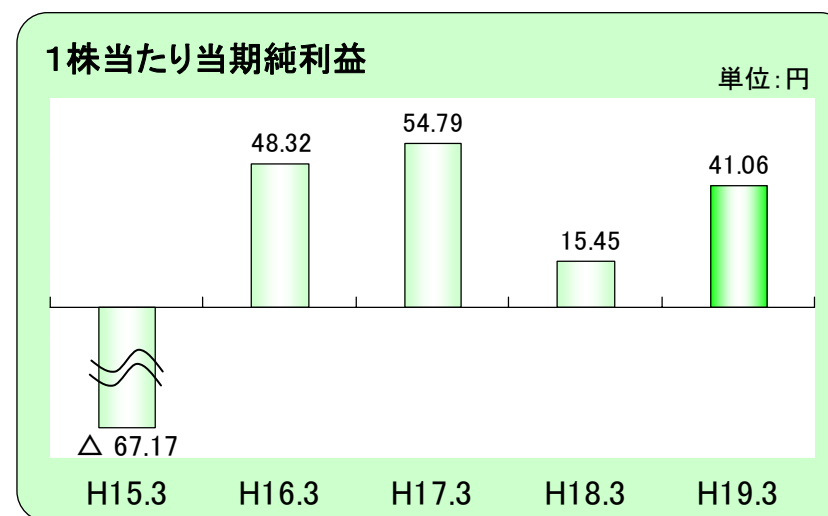
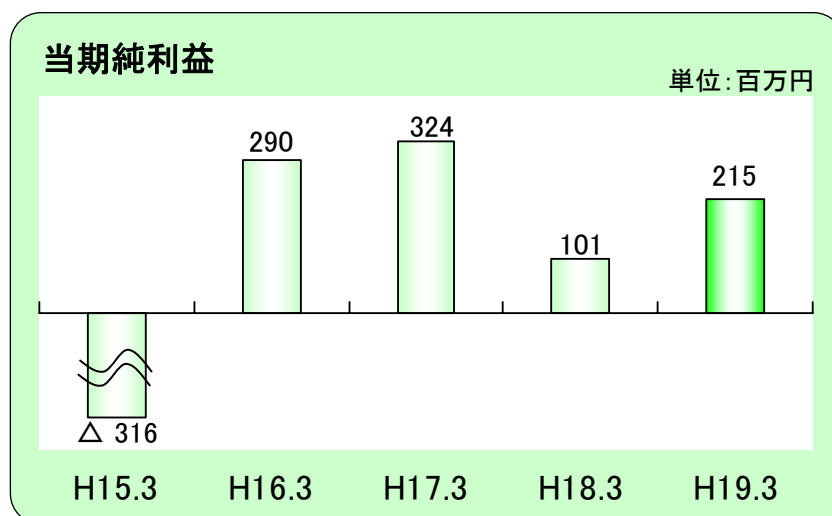
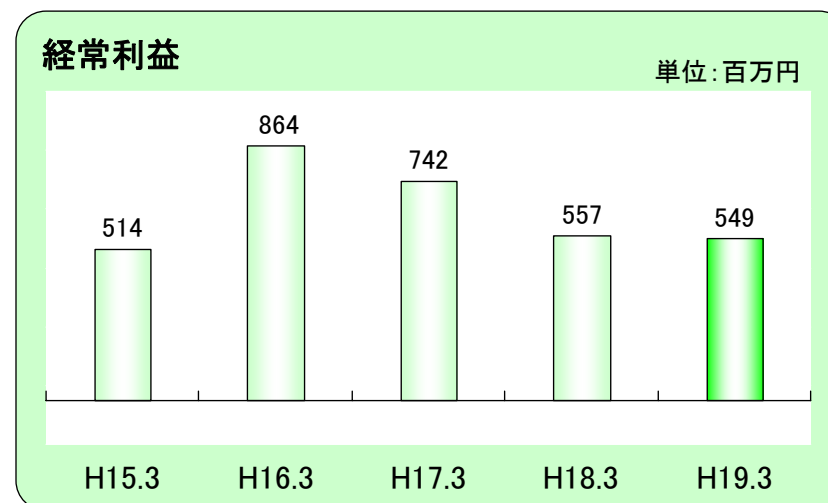
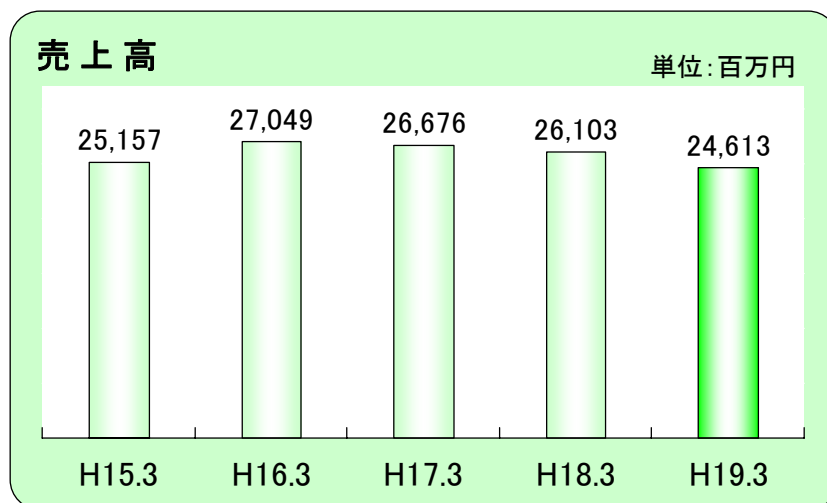


単位：百万円

対処すべき課題

車両関係事業では、スバル新車販売部門の業績回復が最大の課題となっております。平成20年3月期は、6月にインプレッサのフルモデルチェンジが予定されている他、その後もメーカーより順次新型車の市場投入が計画されておりますので、これらのプラス材料を最大限活用し、販売台数の増加による収益の改善を図ってまいります。また、販売とサービスの連携をより一層強化し、お客さまとのコミュニケーションを深め顧客満足の向上に努めてまいります。

業績の推移（連結）



①平成15年3月期は、鈴与厚生年金基金脱退に伴う一括拠出金9億3千9百万円を特別損失に計上しております。

②平成18年3月期は、固定資産の減損に係る会計基準及び同適用指針を適用し、減損損失1億6千6百万円を特別損失に計上しております。

連結財務諸表（要旨）

連結貸借対照表

単位：千円

	平成18年3月31日現在	平成19年3月31日現在		平成18年3月31日現在	平成19年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	8,388,354	8,334,718	流動負債	3,443,990	3,490,866
現金及び預金	2,432,305	2,510,890	支払手形及び買掛金	2,199,933	2,348,194
受取手形及び売掛金	4,001,220	3,642,045	その他	1,244,056	1,142,671
たな卸資産	1,488,193	1,726,139			
その他	472,920	460,811	固定負債	1,778,946	1,383,914
貸倒引当金	△ 6,285	△ 5,168	〈負債合計〉	〈 5,222,937 〉	〈 4,874,781 〉
			少数株主持分		
固定資産	10,067,606	9,879,713	〈少数株主持分〉	〈 2,261,287 〉	
（有形固定資産）	（ 7,476,646 ）	（ 7,282,858 ）	資本の部		
建物及び構築物	2,740,722	2,564,922	資本金	1,337,000	
土地	3,924,686	3,920,454	資本剰余金	1,242,814	
その他	811,236	797,482	利益剰余金	7,667,031	
（無形固定資産）	（ 96,194 ）	（ 81,354 ）	株式等評価差額金	724,890	
（投資その他の資産）	（ 2,494,765 ）	（ 2,515,499 ）	〈資本合計〉	〈 10,971,737 〉	
投資有価証券	2,015,498	2,041,916	負債、少数株主持分及び資本合計	18,455,961	
その他	487,181	481,377	純資産の部		
貸倒引当金	△ 7,914	△ 7,794	株主資本		10,357,744
			資本金		1,337,000
			資本剰余金		1,242,814
			利益剰余金		7,777,929
			評価・換算差額等		745,937
			その他有価証券評価差額金		745,937
			少数株主持分		2,235,968
			〈純資産合計〉		〈 13,339,650 〉
資産合計	18,455,961	18,214,431	負債及び純資産合計		18,214,431

連結損益計算書

単位:千円

	平成18年3月期	平成19年3月期
売上高	26,103,516	24,613,394
売上原価	21,177,793	19,838,941
販売費及び一般管理費	4,427,961	4,282,282
営業利益	497,761	492,170
営業外収益	93,790	93,593
営業外費用	34,325	36,685
経常利益	557,227	549,078
特別利益	133,712	57,258
特別損失	285,784	89,641
税金等調整前当期純利益	405,154	516,695
法人税、住民税及び事業税	128,000	79,519
法人税等調整額	105,898	194,454
少数株主利益	69,441	27,148
当期純利益	101,814	215,573

連結株主資本等変動計算書 (平成19年3月期)

単位:千円

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
平成18年3月31日 残高	1,337,000	1,242,814	7,667,031	10,246,846
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当 (※)			△ 42,000	△ 42,000
剰余金の配当			△ 42,000	△ 42,000
役員賞与 (※)			△ 20,675	△ 20,675
当期純利益			215,573	215,573
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額 (純額)				
連結会計年度中の変動額合計	-	-	110,897	110,897
平成19年3月31日 残高	1,337,000	1,242,814	7,777,929	10,357,744

	評価・換算 差額等	少数株主持分	純資産合計
平成18年3月31日 残高	724,890	2,261,287	13,233,024
連結会計年度中の変動額			
剰余金の配当 (※)			△ 42,000
剰余金の配当			△ 42,000
役員賞与 (※)			△ 20,675
当期純利益			215,573
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額 (純額)	21,047	△ 25,318	△ 4,271
連結会計年度中の変動額合計	21,047	△ 25,318	106,626
平成19年3月31日 残高	745,937	2,235,968	13,339,650

※ 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

	平成18年3月期	平成19年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,003,994	729,220
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 759,699	△ 396,078
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 266,123	△ 254,716
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 592	158
現金及び現金同等物の増加額	△ 22,419	78,584
現金及び現金同等物の期首残高	2,449,725	2,427,305
現金及び現金同等物の期末残高	2,427,305	2,505,890

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、25億5百万円であり、前連結会計年度末から7千8百万円資金が増加（前連結会計年度は2千2百万円の資金が減少）いたしました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

税金等調整前当期純利益が5億1千6百万円でありましたが、売上債権の減少による資金の増加及び退職給付引当金の減少、たな卸資産の増加、法人税等の支払いによる資金の減少等により、7億2千9百万円の資金が増加（前連結会計年度は10億3百万円の資金が増加）いたしました。

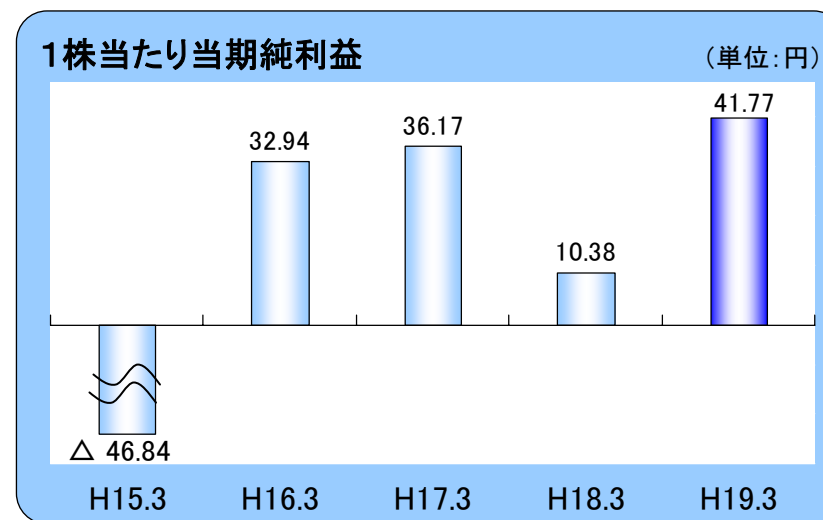
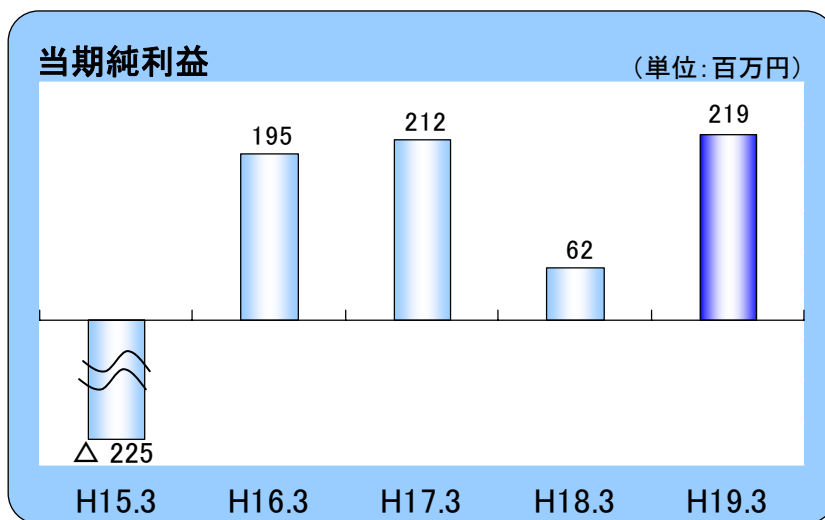
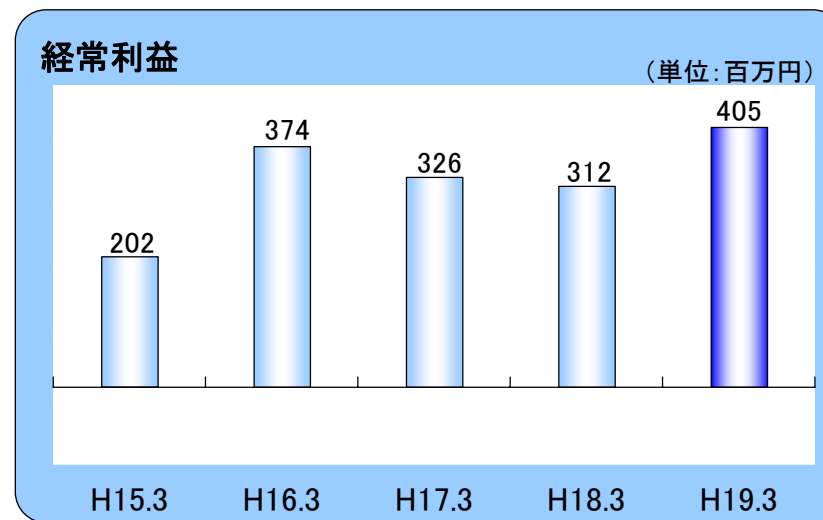
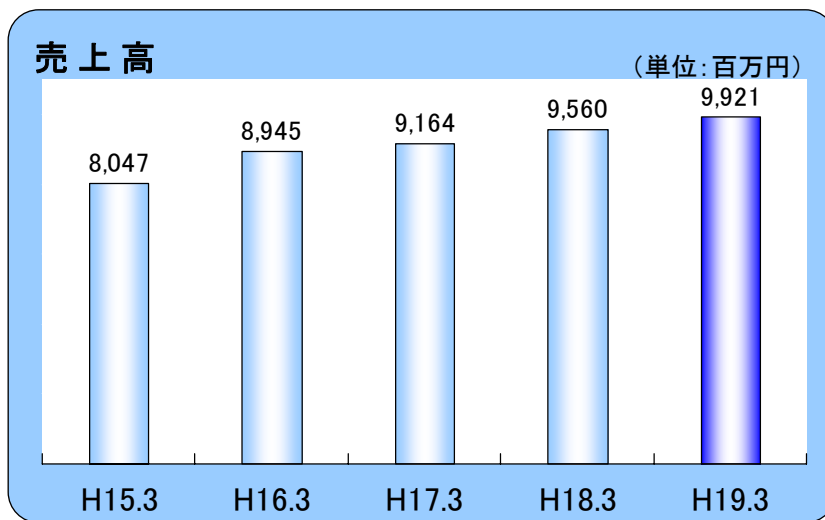
（投資活動によるキャッシュ・フロー）

有形固定資産の売却収入、投資有価証券の売却収入による資金の増加及び有形固定資産の取得による資金の減少等により、3億9千6百万円の資金が減少（前連結会計年度は7億5千9百万円の資金が減少）いたしました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

借入金の返済及び配当金の支払により、2億5千4百万円の資金が減少（前連結会計年度は2億6千6百万円の資金が減少）いたしました。

業績の推移（個別）



①平成15年3月期は、鈴与厚生年金基金脱退に伴う一括拠出金4億8千万円を特別損失に計上しております。

②平成18年3月期は、固定資産の減損に係る会計基準及び同適用指針を適用し、減損損失1億6千6百万円を特別損失に計上しております。

個別財務諸表（要旨）

貸借対照表

単位：千円

	平成18年3月31日現在	平成19年3月31日現在		平成18年3月31日現在	平成19年3月31日現在
資 産 の 部			負債の部		
流動資産	5,570,946	5,880,401	流動負債	1,105,540	1,565,062
現金及び預金	1,608,081	1,789,322	支払手形及び買掛金	644,769	942,562
受取手形及び売掛金	2,802,361	2,578,962	その他	460,771	622,500
たな卸資産	725,783	1,075,578			
その他	439,375	440,903	固定負債	1,146,982	856,632
貸倒引当金	△ 4,655	△ 4,365	〈負債合計〉	〈 2,252,523 〉	〈 2,421,694 〉
			資本の部		
固定資産	6,148,986	6,161,314	資本金	1,337,000	
（有形固定資産）	（ 3,098,408 ）	（ 3,061,146 ）	資本剰余金	1,242,814	
建物及び構築物	1,218,379	1,138,592	利益剰余金	6,204,302	
土地	1,491,516	1,487,283	株式等評価差額金	683,292	
その他	388,513	435,270	〈資本合計〉	〈 9,467,409 〉	
（無形固定資産）	（ 27,690 ）	（ 25,102 ）	負債及び資本合計	11,719,933	
（投資その他の資産）	（ 3,022,887 ）	（ 3,075,066 ）	純資産の部		
投資有価証券	1,723,212	1,702,028	株主資本		8,911,012
その他	1,307,589	1,380,832	資本金		1,337,000
貸倒引当金	△ 7,914	△ 7,794	資本剰余金		1,242,814
			利益剰余金		6,331,197
			評価・換算差額等		709,009
			その他有価証券評価差額金		709,009
			〈純資産合計〉		〈 9,620,021 〉
資産合計	11,719,933	12,041,716	負債及び純資産合計		12,041,716

損益計算書

単位:千円

	平成18年3月期	平成19年3月期
売上高	9,560,799	9,921,275
売上原価	8,045,661	8,307,153
販売費及び一般管理費	1,323,200	1,333,123
営業利益	191,936	280,997
営業外収益	138,778	149,671
営業外費用	17,726	25,460
経常利益	312,989	405,208
特別利益	131,914	56,431
特別損失	279,478	86,161
税引前当期純利益	165,424	375,478
法人税、住民税及び事業税	12,474	8,967
法人税等調整額	89,980	147,166
当期純利益	62,969	219,344

株主資本等変動計算書 (平成19年3月期)

単位:千円

	株主資本				評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
平成18年3月31日 残高	1,337,000	1,242,814	6,204,302	8,784,117	683,292	9,467,409
事業年度中の変動額						
剰余金の配当(※)			△ 42,000	△ 42,000		△ 42,000
剰余金の配当			△ 42,000	△ 42,000		△ 42,000
役員賞与(※)			△ 8,450	△ 8,450		△ 8,450
当期純利益			219,344	219,344		219,344
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)					25,717	25,717
事業年度中の変動額合計	-	-	126,894	126,894	25,717	152,611
平成19年3月31日 残高	1,337,000	1,242,814	6,331,197	8,911,012	709,009	9,620,021

※ 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目。

トピックス

当社では従来から「公平であり公正を追求する」「社会に貢献する」働きがいのある職場環境をめざす」という3つの経営理念を掲げ、従業員の行動指針としてまいりましたが、皆様からさらに信頼され必要とされる企業になることをめざし、このたび経営理念にそって当社の使命、価値観、行動規範を明示した「静甲WAY」を制定いたしました。

静甲WAY

◆ 使命（私たちは何のために存在しているのか）

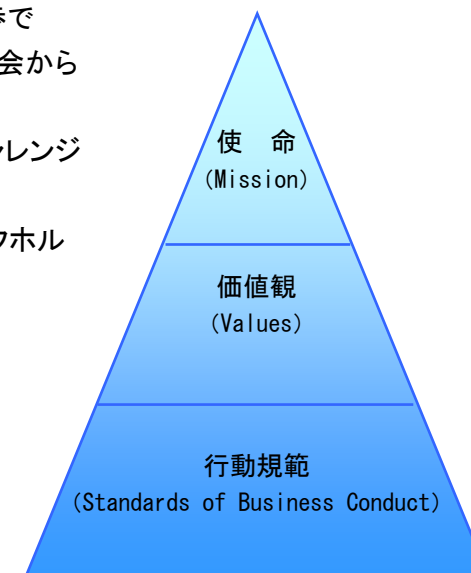
私たちは、お客さまに価値あるモノとサービスを提供し、お客さまと共に豊かな社会の創造とその持続的な発展に貢献します。

◆ 価値観（私たちは何を大切に考えるのか）

- (1) 私たちは、公正で誠実な事業活動を行うことが、お客さまや社会に対する貢献の第一歩であると考えます。そして、お客さまや地域からの声を尊重し、それにお応えすることで社会から必要とされる企業になりたいと考えています。
- (2) 私たちは、革新に全力を尽くします。そのために、私たちは常に広く深く考え、そしてチャレンジすることにより個と組織の力を高め、新しい価値の創造に努めます。
- (3) 私たちは、感謝の心を持ち続けます。この事業を営めることに感謝し、すべてのステークホルダーとの調和をめざします。

◆ 行動規範（私たちはどのように行動するのか）

- (1) コンプライアンスの徹底
- (2) 社会貢献と環境保全
- (3) お客さまの満足向上
- (4) 業務プロセスの絶えざる改善
- (5) 人材の育成と職場環境の改善



平成20年3月期業績予想（連結・個別）

■ 連結業績予想（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
中間期	13,000	220	230	120
	百万円	百万円	百万円	百万円
通期	25,800	500	510	220

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期） 41円90銭

■ 個別業績予想（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金		
					中間	期末	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭	円 銭	円 銭
中間期	5,200	150	200	120	8 00	—	—
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭	円 銭	円 銭
通期	11,000	280	380	220	—	8 00	16 00

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期） 41円90銭

（注）上記の業績予想は、本資料発表日現在における将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想であり、実際の業績は様々な要素により異なる結果となる可能性があります。